

# すごいね! あだちの 子どもたち

## 俳句編

### VOL.14

#### 全国小中学校俳句大会

特選 一茶まつり大賞 受賞

西新井小学校1年 田島蒼汰さん



はかまいり  
みせたかったならんどせる

たじま 田島さん

田島さんがとても慕っていた曾祖母は、保育園の年長の時に亡くなりました。田島さんの句には「おおばーばに小学生になつたところを見せたかった」という思いが込められています。

審査をした炎天寺は、「田島さんの句の『ランドセル』という言葉に素直な自分の思いがちゃんと託されている。俳句は短い言葉の中に思いを込めなくてはならないが、1つの言葉に自然な形で表現できたのが良かった」と評価しました。

「天国のおおばーばも喜んでくれたはず」という、その優しい思いは、きつとおおばーばに届いたことでしょう。

#### 第31回全国児童生徒俳句大会

文部科学大臣賞 受賞

上沼田小学校5年 久保田さくらさん



消しゴムで  
夏の日差しを消してみる

くぼた 久保田さん

#### 第3回数学・算数川柳&俳句&短歌 俳句の部 大賞 受賞

上沼田小学校5年 鶴谷優香さん

大寒や 窓の水滴 平行線

「信じられない」と2人は驚き喜びました。

同じクラスに通う鶴谷さんと久保田さんは、それぞれ応募数1万句を超える大会で、見事に1位相当の賞を取ったからです。鶴谷さんは、寒い朝に窓を見ると、「結露が垂れて平行線ができたみたいだ」と思い、句を詠みました。

久保田さんは、宿題の漢字練習をしている時に、窓から入る日差しがまぶしかったので、「日差しを消しゴムで消してしまえ

「たら良いのに」という気持ちを表しました。2人は「文字制限などが

ある中でまとめなければならぬ所が大変だった」と言いつつも、「普段使わない言葉をパズルのように組み合わせるのが楽しい」と。2人の保護者によれば、4年生の時、運動会などのイベントの度に五・七・五で気持ちや状況を表現する課題が出されていたこともあり、端的に表現するのが上手になった、とのこと。

さまざまな場面で必要とされる表現力を身につけた2人が、今後どんな分野で活躍してくれるのか楽しみです。

全国で



足立区は江戸時代の著名な俳人の小林一茶や松尾芭蕉との関係が深い場所です。足立区六月にある炎天寺は小林一茶が句を残した寺として知られています。また、北千住は、松尾芭蕉の紀行文「奥の細道」の旅立ちの地としても有名です。



今回は、全国規模の俳句大会で活躍した子どもたちを紹介します。